

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2775900604		
法人名	社会福祉法人 健成会		
事業所名	高齢者グループホーム しらなみ		
所在地	大阪市住之江区南港中3-3-43		
自己評価作成日	平成23年4月10日	評価結果市町村受理日	平成23年6月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-">http://www.osaka-fine-kohyo-</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成23年4月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホーム周辺は車両乗り入れの規制があり、町全体が大きな公園のようで緑に囲まれ、毎日の散歩や買い物に出かけやすい環境にあります。保育園や幼稚園・小・中学校や地域の行事に参加するなどの交流をし、地域の一員としての暮らしも大切に考えています。ホームの生活では、フットケアに力を入れ、入浴ができない時は個別に足浴をし、健康促進とマンツーマンでの関わりのひとときとなっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開所10年余の経験を踏まえ、認知症とそのケアへの考え方の変化への対応について初心に戻って学習し、職員の経験の浅深の差を埋めて確かなケアの質を確保し、利用者の単なるニーズ(必要性)ではなく、ウォンツ(欲求)に気付いたケアを目指したいとしている。  
非常勤職の比率が大きいですが、お互いの働き易さを活かしながら、月1回の職員会議は全員参加とし、日常の15分 ティタイムミーティングを大事にしている。  
利用者家族をお客様あつかいせず介護サポーターとして位置づけ、行事の準備・後片付けを共に行い、お出掛けに同行することを慣習とし、面会時には他の利用者ともオシャベリを楽しみ、職員とも忌憚のない意見交換ができる関係性が築かれている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を管理者とスタッフとで作成し、実践に向けて取り組んでいる。	孤立・密室化した施設ではなく、家族や地域の人々が自由に入出しし、イベントへの参加やボランティア活動ができる共同体をつくり、利用者の「生きる」を支えるとする理念が、開所10余年の実践に受け継がれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の町会に入り、地域行事への参加をしたり、近隣の学校等の交流を図っている。	中学校文化祭に利用者の作品を展示・見学してPTAとの交流、小学校の社会見学を機にキャラバンメイト講座の企画、自治会行事に職員の手伝いなど、地域資源の互換性を意識した交流を目指して努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の集まりの場などで認知症についての勉強会を実施したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期開催し、委員で認知症についての理解を深めたり、災害対策などについて話し合っている。	開催期・構成員・会議内容については概ね順当である。但し、地元住民の参加がすくない。	地域交流がグループホームの命題とされ、重要な地域資源となるなかで、推進会議の必要性を認識した活性化に向けての一層の努力を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大阪市グループホームネットワークの世話人会に所属し、情報収集を中心に関わりを持つよう努めている。	住之江区のグループホーム連絡会を立ち上げるなど、行政サイドとの協働を図りながら、業務的連携も含めた協力関係を継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを実践し、また内部研修において身体拘束についての勉強会を実施している。	心と身体、共に拘束について理解し、日々の実践に活かしている。玄関の施錠はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修において勉強し、日常的に利用者の様子について注意深く観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等において専門知識の習得に努め、関係機関とも相談しながら活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者だけでなく介護スタッフも同席し、十分に納得理解できるよう説明と話しあいを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に意見を聞いたり話し合いをし、その内容は会議で検討し取り組んでいる。	年2回、出席率の良い家族会での会話を傾聴し、職員夫々が家族面会時に忌憚りの無い会話を心掛けるなどで意見や要望を把握するよう努め、課題解決に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会や毎日の申し送りにおいて意見交換できる機会を持ち、業務に反映できるよう努めている。	毎月の定例会を全員出席で行い、日常の「気づきノート」活用、日々の15分ティタイムミーティングなど、意見を聞く機会設定に配慮がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人が目標設定をし、やりがいや達成感を感じられる職場作りに勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人が目標設定をし、その実現にむけて取り組めるよう、必要に応じて外部研修の受講などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	府・市・区内の連絡会に参加し、意見交換や情報交換などの交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時、ご本人ともゆっくり話をする時間を取り、その席に介護スタッフも同席しご本人の声を現場に反映できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時、ご本人とは別席にて話を聞く機会を持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の介護サービスの説明や相談窓口の紹介を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活においてご本人の得意なことを中心に役割分担しスタッフも一緒に行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の支援について可能な限り参加してもらえよう、こまめに状態の報告をし、一緒に考え取り組むようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等の協力を得ながら、なじみの場所を探したり関係を続けられるよう努めている。	利用者の半数近くが開所以来や5～6年の入居歴、加えて認知症の進行もあり馴染み関係の維持は簡単ではないが、買い物ついでに馴染みの喫茶店に立ち寄り、以前のデイサービス仲間との行事での再会などを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題や活動を通じて、共同生活の良さを感じられるような関係作りを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙や電話などのやりとりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から話を聞く機会を多く取るよう心がけ、思いや希望を把握し、実施できるよう努めている。	日常の会話を大切に、「やってみたいこと」に直ぐ対応する、「今の納得」を得るよう工夫するなどの努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にこれまでの生活についての話をよく聞き、入居後もその生活スタイルがなるべく維持できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録によって毎日の過ごし方が継続して把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を使用し、スタッフ間で情報を共有し、会議等において課題と対応について検討している。	気づきノート、15分のティタイムミーティング、定例会で意見や情報交換で課題を共有しての介護計画を作成し、必要な見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要に応じて記録様式の見直しをし、より状態を把握しやすいよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスでのレクリエーションや趣味の教室などに参加し、幅広い交流や活動を行なえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望を叶えられるよう資源の把握をし、協力を求めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については希望を考慮し、協力医療機関をかかりつけ医にされた方は定期的に医療を受け、緊急時においても事業所との連携が図れている。	医療連携体制の下、協力医療機関医をかかりつけ医とし、往診日や訪問看護日を家族に通知し、同席の機会を設けて情報を共有する仕組みをもち、利用者と家族の安心を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携や、併設サービスの看護職員への相談などを行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護を通じて状況の把握をし、早期の退院やご本人や家族の不安の解消のためのカンファレンスを実施できるよう働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を策定し、方針についてご本人・家族・医療機関等へ説明同意を得ている。	看取り・重度化対応の指針を医・家族・ホームで共有し、医療措置の是非により対応を決めている。終末期対応の経験は無いが、必要が生じた場合は家族の協力を得てそれに当たりたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修において勉強し、緊急時に適切な対応のできる体制作りに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、万が一の事態に備えている。	規定の避難訓練に、夜間想定訓練を加えるなどの対策がある。地域の防災訓練に施設長と管理者が参加し、推進会議で防災・避難訓練が話題となるなど、地域との連携も見え始めている。	緊急時に多くの近在職員の応援があるとは言え、地域の応援体制への要請には努力の継続を期待し、食品備蓄の厨房依存の見直しと、避難場所出入り口の整備を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護規定を定め対応している。また日常の介護の場面においてもプライバシーが守られるよう配慮した対応を行なっている。	介助時のプライバシーへの配慮はもとより、申し送り時の利用者名も部屋番号で呼称するなどの配慮をしている。必要とする利用者には部屋の鍵を渡している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中でご本人の声に耳を傾け、意見を尊重できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの生活スタイルを尊重し、ご本人の意見が尊重されるよう働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びや身支度などの際、ゆっくりと決められるよう働きかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフも一緒に準備をし、みんなで食卓を囲む楽しさや、食事作りやおやつ作りにおいて希望のものが食べられるよう配慮している。	デイサービス・ケアハウスと共同の厨房からの食事を利用しているが、毎日曜日はホームでの献立での買い物・調理で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめな水分補給や、食事量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、夜には一人ひとりゆっくりと寄り添い、口腔内の把握をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録などを活用し、お一人お一人の排泄について検討する機会を持っている。	さり気なく、且つ必要に応じての適切な排泄介助、トイレ誘導に専念している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分補給などで予防に努め、排泄パターンの把握などを検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴も楽しみ場となるよう、ご本人のペースで入浴できるよう働きかけている。希望される時は入浴できるよう配慮している。	週2回を原則とするが、希望者には毎日でも対応し、入浴の時間帯は職員をプラスしている。デイサービスの「大きい風呂は温泉みたいだ」を楽しむ利用者も多い。「足浴」＝「脚美人」が利用者と職員の良い繋がりをつくっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の自然な流れで安心して就寝できるよう働きかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容について書類を整備し、スタッフが把握できるようにしている。服薬もれのないよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の嗜好や生活歴から個別に楽しみを満たせるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物などご本人の希望に沿って外出できるよう支援している。普段は困難な場所でも家族と相談しながら外出できるよう検討している。	季候・天候・心身の状況に合わせた散歩の他、「小出かけ」の楽しみをつくる計画も立てている。環境的に恵まれているので、四季折々の風と光は利用者の生き・活きに力を注いでいるようだ。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際はご本人に支払いをしてもらい、ご本人のお金であることや社会生活としてお金を使うことを感じられるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話や手紙をやりたいと言ったときはすぐにできるよう取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるような装飾や生活感のある物品の配置をし、居心地の良い空間作りに努めている。	余計な装飾のない、施設風ではないリビング・キッチン、10余年の歳月と其処に住み集う人たちがもたらす落ち着いた風景と相俟って、居心地の良いものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団と離れて過ごせる空間の工夫をし、少人数ですごせる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使用していた家具や物を持ち込んでもらい、居心地のよい空間作りをしている。	入居歴の差異や認知症の関係性もあるが、それぞれに家族の思いや個人の好みで設えられた居室が清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	みんなが分かりやすい表示を心がけている。		